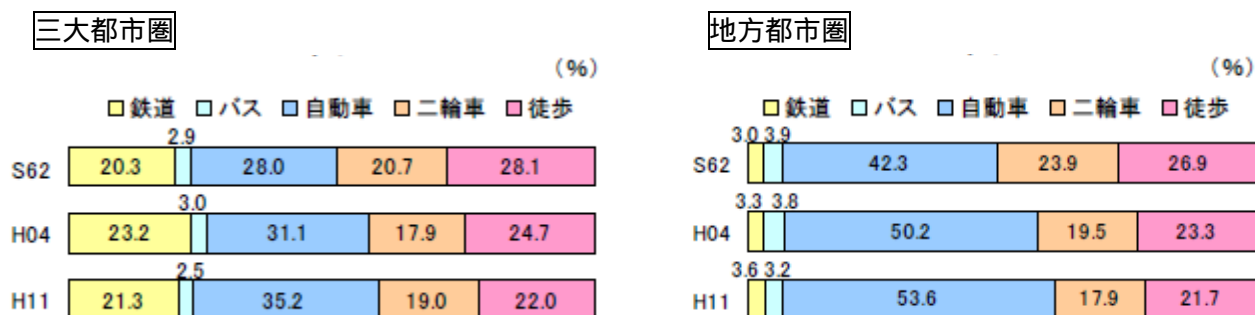


(7) 都市圏交通における交通機関分担率の現状

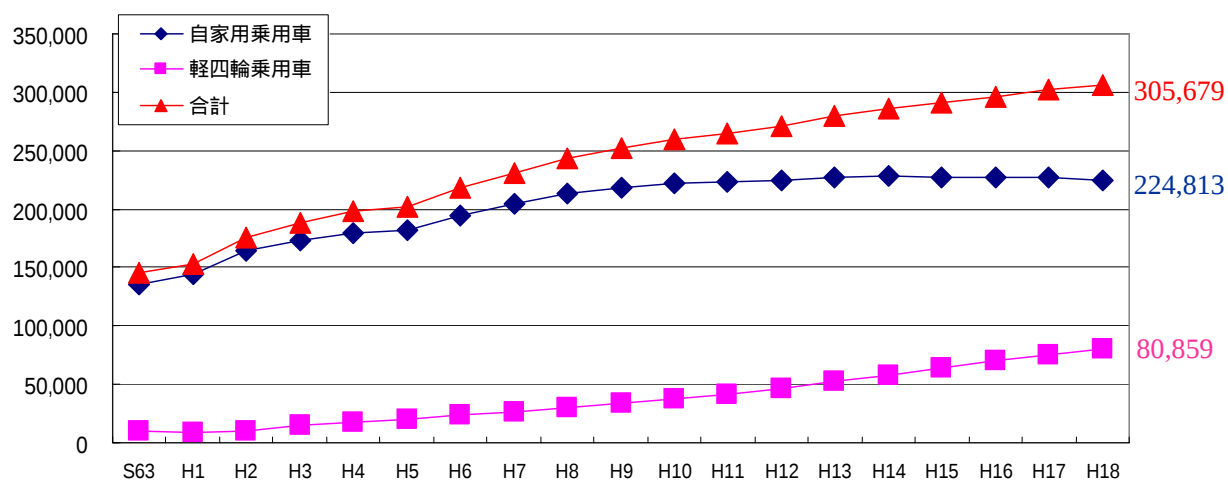


▲ 都市における機関分担率の推移

出典：平成 11 年全国都市パーソントリップ調査資料を基に、国土交通省国土計画局作成

わが国において、自動車保有台数の増加と相まってモータリゼーションが進展しており、結果として大都市圏、地方都市圏を問わず公共交通および自転車・徒歩の分担率が減少している。

(8) 自動車保有台数



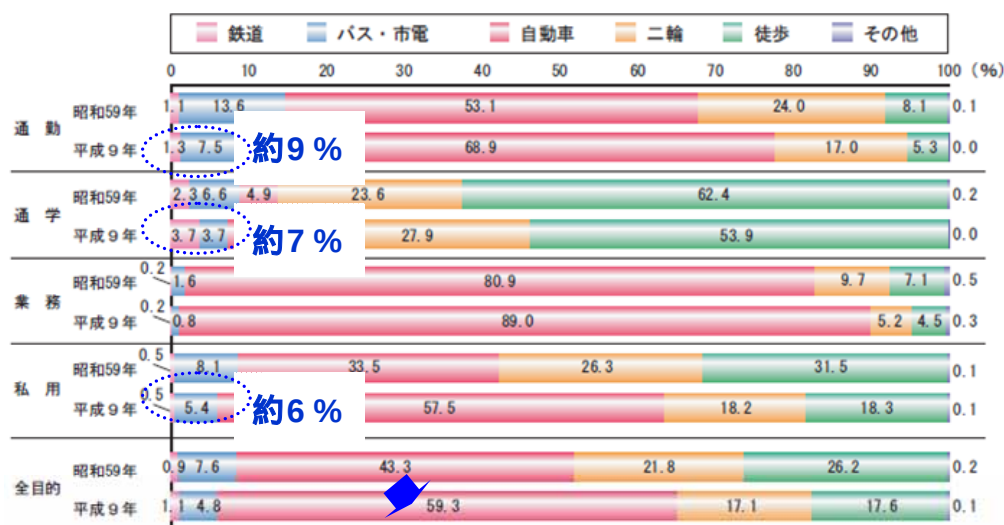
▲ 自動車保有台数の推移

資料：九州運輸局熊本陸運支局

軽自動車の増加が著しい。

熊本市 3 警察署管内の免許人口は約 41 万 8 千人 (H 1 8)。

(9) 目的別の利用交通手段

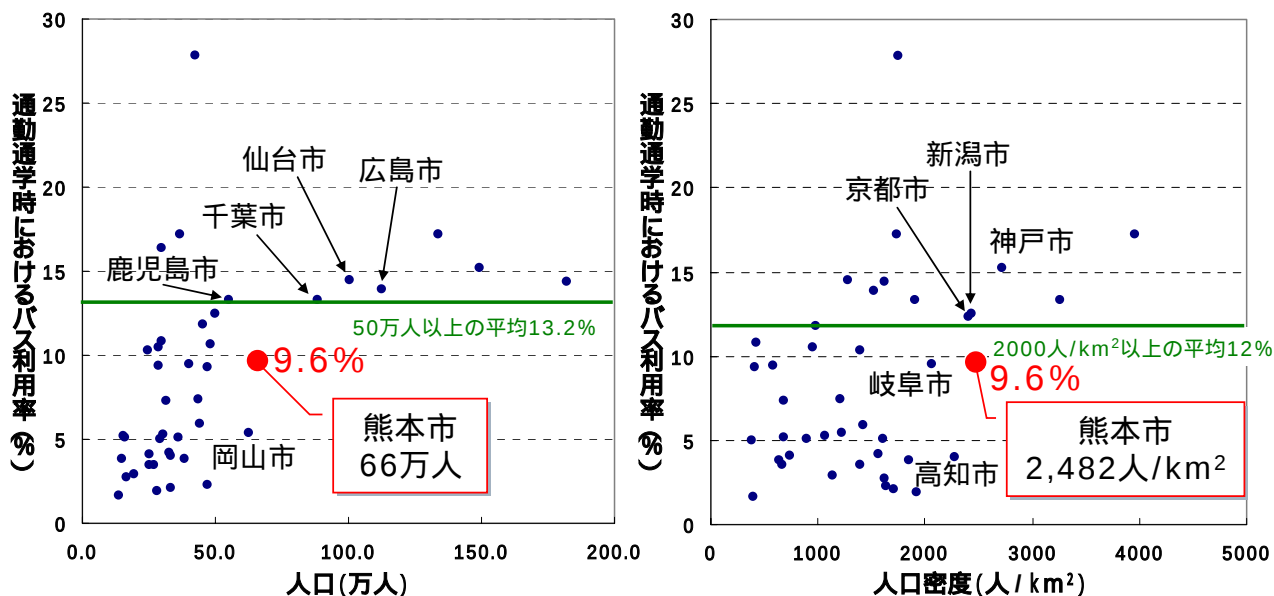


▲ 目的別交通手段構成の変化

資料：第3回熊本都市圏PT調査結果

鉄道、バス・市電などの公共交通機関の分担率は、通勤で約9%、通学で約7%、その他、私用で約6%と低く、全体的に自動車分担率が増加。

(1 0) 通勤通学時におけるバス利用状況

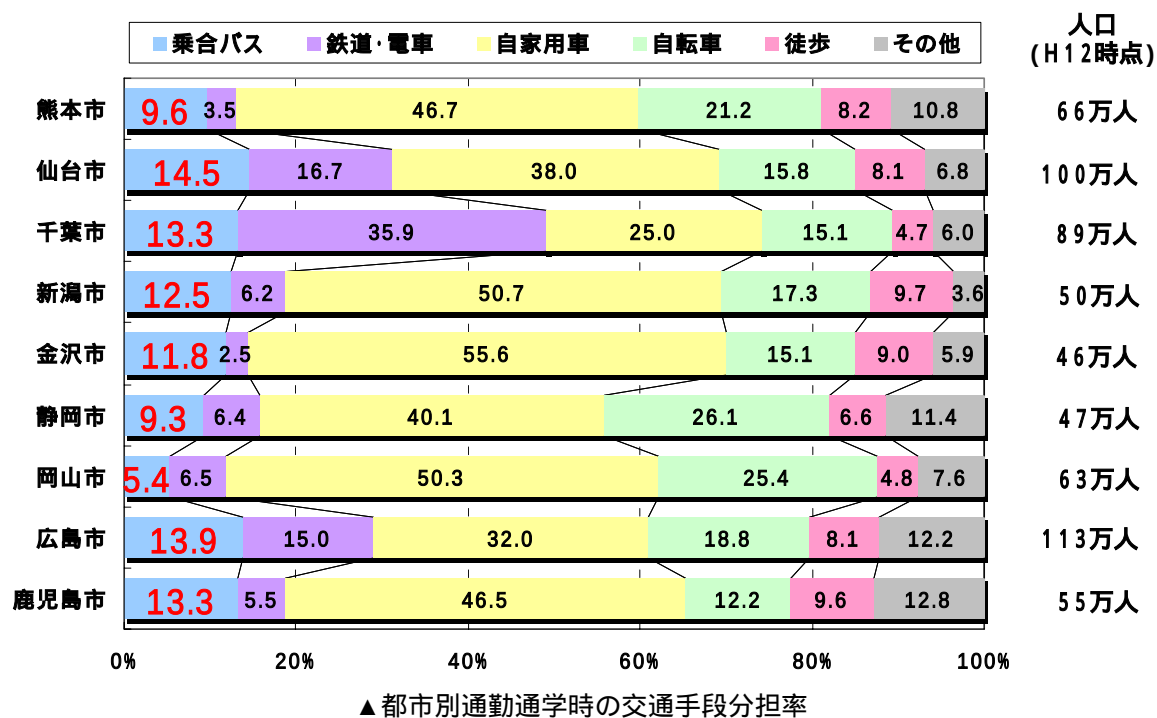


▲ 人口 200 万人未満の全国県庁所在都市との比較 ▲ 人口密度 5,000 人/km²未満の全国県庁所在都市との比較

資料：国勢調査（H12）

通勤通学時におけるバス利用率は、9.6%と人口が50万人以上の都市の平均13.2%と比べ低い。
 人口密度で比較しても、同密度の都市に比べ低い。

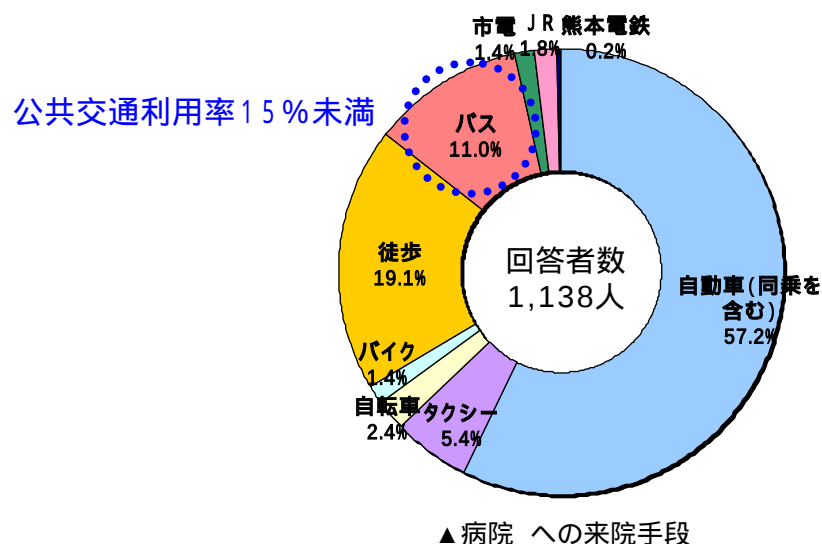
(1 1) 目的別の利用交通手段



資料：国勢調査（H12）

通勤通学時のバス分担率は、9.6％と人口が同規模の都市に比べ低い。

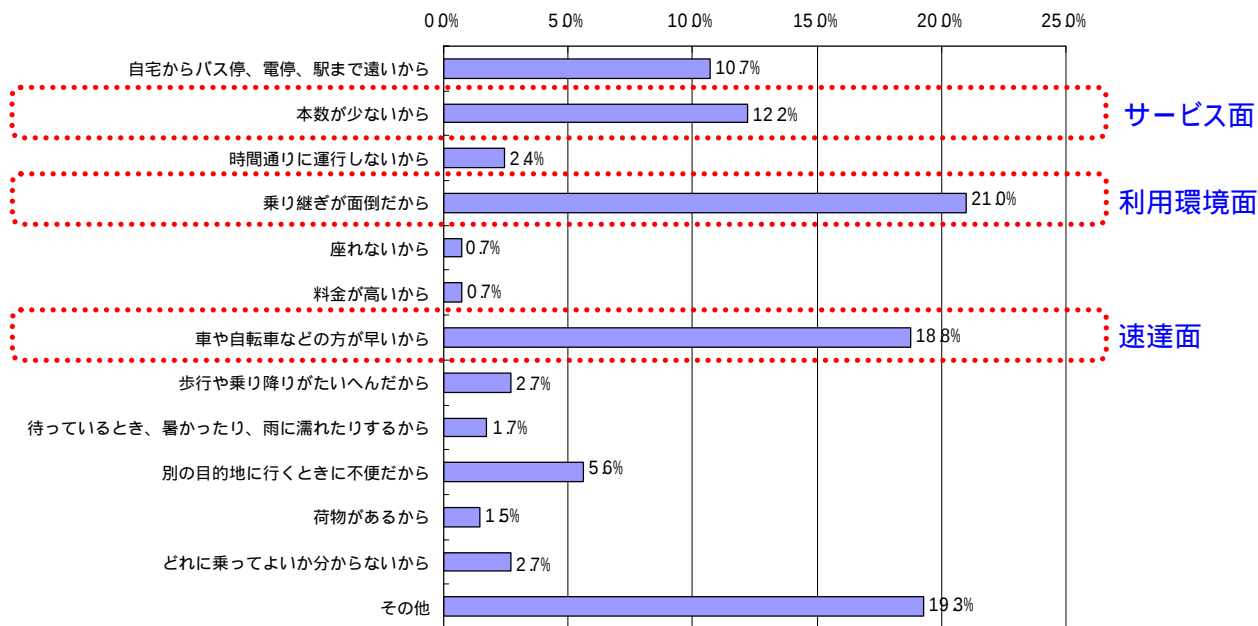
(1 2) 病院への来院手段



資料：熊本市アンケート調査結果（H18.12）
熊本大学病院、済生会病院、熊本市市民病院、日赤病院、中央病院

いずれの病院もバス停が近接しているが、病院へのバスでの来院は 11％と低く、高齢社会への対応として、病院等への公共交通によるアクセス性向上が必要。

(1 3) 公共交通機関を利用しない理由

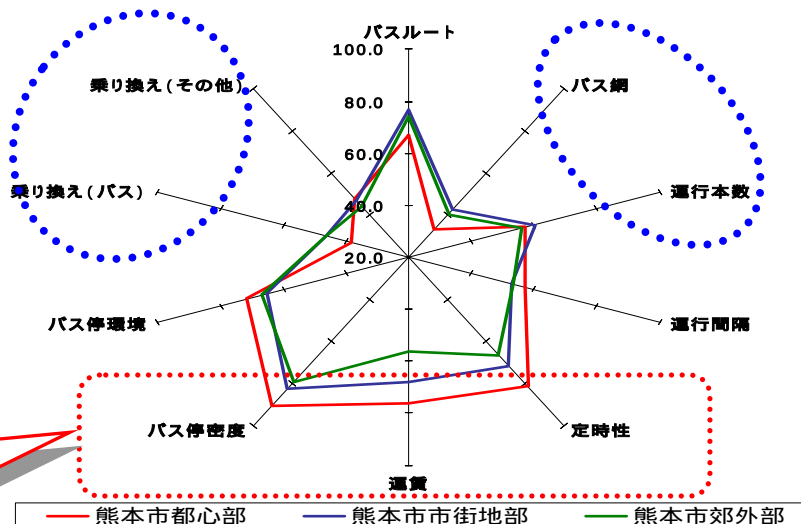
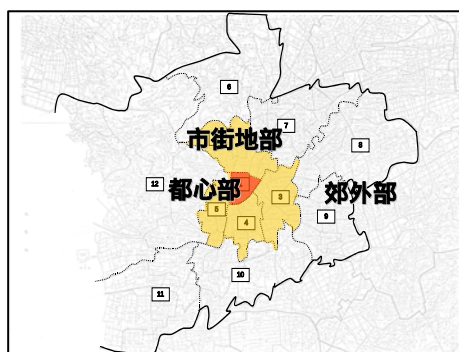


▲ 公共交通機関を利用しない理由

資料：熊本市アンケート調査結果（H18.12）
熊本大学病院、済生会病院、熊本市民病院、日赤病院、中央病院

利用しない理由としては、「サービス面」・「利用環境面」・「速達面」に対する意見が多く、アクセス性向上に向けては、利用環境面等への対応が必要。

(1 4) 公共交通機関に対する満足・不満足度



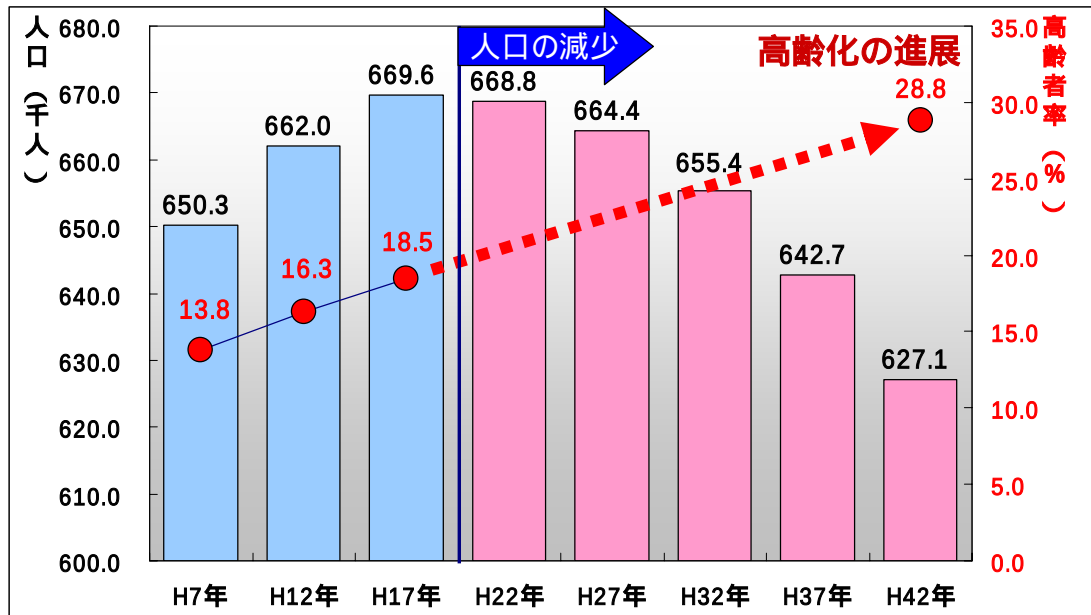
郊外部では、「定時性」や「運賃」などに対する満足度も低い

▲ バスに関する満足度

資料：熊本市アンケート調査結果（H15.10）

乗り換え（バス、JR、市電など）に対する満足度やバス網、運行本数に対する満足度が低く、公共交通機関相互の連携やサービス面の充実が必要。

(1 5) 将来の人口動向、高齢化率

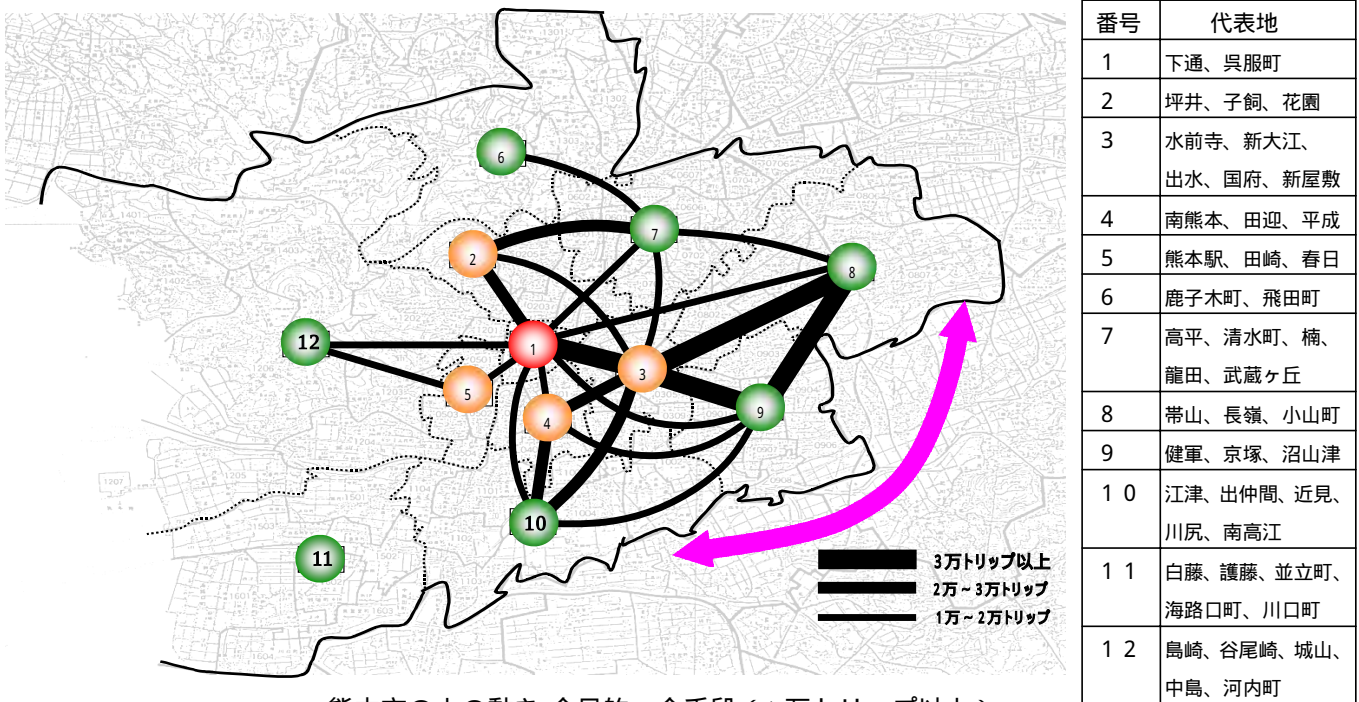


▲ 熊本市の将来人口推計

資料：熊本市第 6 次総合計画基礎調査

熊本市の人口は減少傾向にあり、高齢化率は年々増加し、平成 42 年では約 29%と予測され、高齢者の移動手段確保に向けた取り組みが必要。

(1 6) 移動状況 (公共交通、自動車、2 輪、徒歩全て含む)

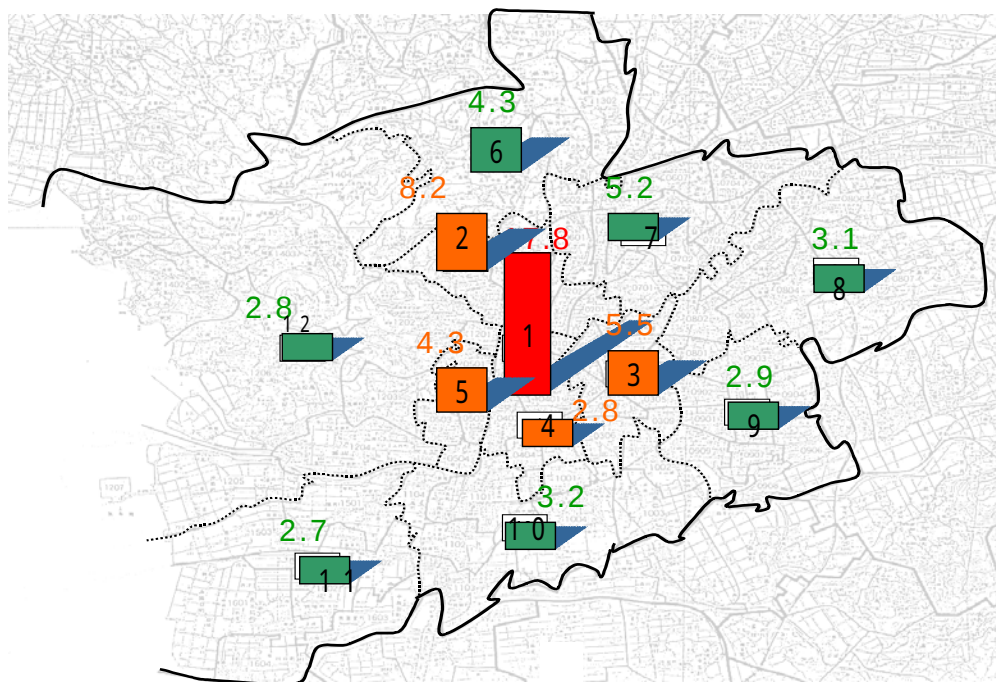


▲ 熊本市の人の動き-全目的・全手段 (1 万トリップ以上)

資料：第 3 回熊本都市圏 P T 調査結果

都心部 (ゾーン 1) と市街地部 (ゾーン 3) を中心とした流動が多いものの、ゾーン 6 ~ ゾーン 10 の流動やゾーン 8 ~ ゾーン 10 の流動なども多く、市民の移動ニーズに即した公共交通体系の構築が必要

(1 7) 将来の人口動向、高齢化率



▲ゾーン別のバス利用率

資料：第3回熊本都市圏PT調査結果

都心部（ゾーン1）ではバスの利用率が約18%あるものの、市街地部（ゾーン2～5）では10%未満。

その他、郊外部（ゾーン6～12）では5%未満と低い。